

# 特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

## 目的

### 1. 課題

就学支援に関し、幼保小の連携、福祉・医療への繋がりが不完全である。また、なかなか早期からの対応ができていない現状がある。

### 2. 設定目標

早期支援コーディネーターが幼稚園や保育園及び小・中学校を巡回し園児・児童・生徒の観察を通して一人一人に適した学びの場を提案するとともに、就学に向けた専門的な助言を行うことで保護者の就学についての不安を和らげる。



## 成果

1. 連携促進 教育委員会が中心となった連携体制の構築

2. 個別観察情報の蓄積と活用

支援の際に個別観察表を活用し、スタッフが分担して対象児を観察、事後に互いに入力してその情報を共有し、次の年度に継続できるようにしている。

3. 保護者などの理解促進

特別支援への理解が深まり、心理検査等医療機関につながる園児・児童・生徒が増加。その結果を連絡シートを通して入学前に提示することを希望する保護者も増加した。

4. 今後の取組

早期からの支援を進めるため、定期的な観察訪問・次の支援先との情報共有を継続して行う。

## 事業内容

### 1. 連携体制の整備

#### (1) 早期支援コーディネーターの配置

教育総務課に早期支援コーディネーターを配置、保育所（園）や各小中学校を巡回訪問し、相談・支援を行う。

#### (2) 相談会を通じた連携

近隣自治体と広域的な相談会を実施、就学や発達についての相談業務を行う。

### 2. 個別観察簿・連絡シートの作成

乳幼児期からの支援方法や個別情報を共有するため、個別観察表の作成、保護者から学校への連絡シートの取りまとめを行い、保護者と支援機関、進学先とが支援内容の情報共有を行う。

### 3. 就学支援のフローチャート・就学進学の支援先一覧の作成

南砺市での子育てや就学相談先を紹介した一覧を作成。各保育所や学校へ配布し、気になる子への支援体制の情報共有を行う。

